

4

免疫の異常で起こる 肝臓病もあるんですか？

A 細菌やウイルスなどの異物を排除する「免疫」が異常を起こして、自分の肝臓を誤って攻撃する病気を自己免疫性肝疾患と呼びます。

自己免疫性肝炎 (autoimmune hepatitis:AIH)

自己免疫で肝細胞が障害される病気で、中年以降の女性に好発します。血液検査ではASTやALTなどの肝細胞逸脱酵素が上昇し、IgGや抗核抗体(ANA)が陽性となります。治療は副腎皮質ステロイドがよく効きますが、多彩な副作用に注意が必要です。反応不良例などではアザチオプリンという免疫抑制剤も使用されます。

原発性胆汁性胆管炎 (primary biliary cholangitis:PBC)

自己免疫で肝臓内の細い胆管が障害される病気で、中年以降の女性に好発します。血液検査では胆道系酵素であるALPやγ-GTPの上昇を伴いやすく、IgMや抗ミトコンドリア抗体(AMA)が陽性となります。治療はウルソデオキシコール酸がよく効きますが、効果が不十分な場合にはベザフィラートが併用されることがあります(保険適用外)。

注意!

AIHもPBCも治療により多くが症状を安定させることができますが、治療は非常に長期に渡ることがほとんどです。一旦症状が良くなっても、自己判断で中断したり減量したりすると、再燃する危険性があります。

自己免疫性肝疾患はいずれも厚生労働省が指定する指定難病です。重症度により医療費補助を受けられる場合がありますので、主治医に確認してみてください。

難病情報センター(公益財団法人 難病医学研究財団)のウェブサイト

<https://www.nanbyou.or.jp>

